

【第6回】都市計画マスタープラン等見直し検討部会

市民意見の反映に関わる取組 (速報)

【目 次】

- | | |
|-----------------------|-----|
| 1 オープンハウス(展示型説明会)について | ……1 |
| 2 子どもアンケートについて | ……4 |

オープンハウス(展示型説明会)の概要

オープンハウス(展示型説明会)

●実施目的

- ・3つの計画について、案の作成段階で今後の都市づくりの方向性に関する市民の幅広い意見を収集し、計画見直しの参考とする

●開催場所

- ・市役所本庁舎、区役所または区民センター 全11会場
※開催期間中は市ホームページでも資料を公開し、意見募集フォームから意見を募集

●実施期間

- ・令和6年11月18日～12月25日 ※各会場3日間の開催

●実施方法

- ・開催場所に用意したパネルについて、常駐する職員から説明した上で、市民の意見を聴取



札幌市役所本庁舎



清田区役所



白石区役所複合庁舎



豊平区民センター

パネルの構成

◆これまでの都市づくりや最近の状況・今後の見通しについて

- ・現在の都市計画マスタープランの基本目標のほか、人口減少社会の到来や活発な都市のリニューアルなど最近の状況を説明



◆これからの都市づくりの方向性について

- ・これからの都市づくりの方向性を「生活と暮らし」、「都市の成長」、「札幌ならではの魅力」、「環境、安全・安心」の4つの項目に分類し、説明

意見①:都市づくりを行う上で重要と考える要素について意見を収集



◆3つの計画それぞれの見直しのポイントについて

<見直しのポイント>

- ・都市計画マスタープラン:基本目標、市街地区分ごとの取組の方向性
- ・立地適正化計画:集合型居住誘導区域、都市機能誘導区域など区域ごとの取組の方向性
- ・都市再開発方針:再開発に求められる「都市の魅力を高める工夫」

意見②:見直しのポイントに対する意見を収集

収集した市民の意見

3つの計画の検討

●実施結果

- ・意見の回収件数:1,103件(うちホームページ等からの回答22件)

オープンハウス(展示型説明会)で展示したパネル(一例)

3 これからの都市づくり

内部充実型の暮らしやすいまちへ

- 市街地では公共交通を基軸とした都市構造を活かして、快適さや暮らしやすさが維持された、歩いて暮らせる都市づくりを図ります。

多様なライフスタイルに対応した「住宅市街地」

- 都心・地下鉄駅周辺などでの利便性の高い暮らしや、郊外での自然と調和したゆとりのある暮らしなど、多様なライフスタイルが実現できる都市づくりを進めます。

豊かな生活を支える「地域交流拠点」

- 住宅地の生活を支える公共サービス・商業・医療などの施設の充実や公共交通の乗換機能の強化などを進めます。



詳しくは
パネル4へ

魅力と活力を先導・発信する「都心」

- 多様なひと・もの・ことを受け入れ、交流を促進しイノベーションがうまれる都心の形成を図ります。

■大通西4南地区



■北海道新幹線H5系



提供：JR北海道

- 「都心の交通機能」の維持・向上や魅力的なストリートの形成により、居心地が良く歩きたくなるまちづくりを推進します。

- 世界的な脱炭素化の潮流を捉え、国内外に札幌の価値を発信していくため、先進的な取組により脱炭素化を先導します。

札幌の産業を支える「工業地」

- 市民の生活や札幌の成長を支えるため、工場などの操業環境の維持・向上や用地の確保に向け取組を進めます。

詳しくは
パネル5へ

生活と暮らし

都市の成長

社会の変化を捉えた持続可能な都市づくり

札幌ならではの魅力

産業や観光など札幌の魅力と活力を高める「高次機能交流拠点」

- 国内外問わず、多くのひとやもの、投資、情報と呼び込むため、国際的・広域的な観点を持った産業や観光、スポーツ、文化芸術などの機能を高めます。

■定山溪



■円山動物園



■サッポロビールランド



自然環境を守りながら魅力を高める「市街地の外」

- 自然環境を守ること前提に、札幌の魅力や活力を高める限定的な土地利用を検討します。

詳しくは
パネル6へ

詳しくは
パネル7へ

環境、安全・安心

脱炭素社会の実現に向けた取組の推進

- 脱炭素社会の早期実現に向け、更なる省エネルギー化に加え、再生可能エネルギーの導入拡大や新たなグリーンエネルギーである水素エネルギーの活用等の取組を進めます。

災害に強く、安全・安心な都市

- 地震や大雨など、激甚化・頻発化する自然災害に対応するため、建物の耐震化や老朽化した建物の建替え更新、インフラの整備を進め、災害に強く安全・安心な市街地を形成します。

■橋梁の耐震化



■河川の改修



〇生活と暮らし

都市マス

立適

再開発

【住宅市街地】公共交通を基軸とした都市構造を活かして、快適さや暮らしやすさが維持された、歩いて暮らせる都市づくりを図る

【地域交流拠点】住宅地の生活を支える公共サービス・商業・医療などの施設の充実や公共交通の乗換機能の強化などを進める など

〇都市の成長

都市マス

立適

再開発

【都心】多様なひと・もの・ことを受け入れ、交流を促進しイノベーションがうまれる都心の形成を図る

【工業地】市民の生活や札幌の成長を支えるため、工場などの操業環境の維持・向上や用地の確保に向け取組を進める など

〇札幌ならではの魅力

都市マス

立適

【高次機能交流拠点】国際的・広域的な観点を持った産業や観光、スポーツ、文化芸術などの機能を高める

【市街地調整区域】自然環境を守ることを前提に、札幌の魅力や活力を高める限定的な土地利用を検討する など

〇環境、安全・安心

都市マス

立適

再開発

【市全体】脱炭素社会の早期実現に向け、更なる省エネルギー化に加え、再生可能エネルギーの導入拡大等の取組を進める

【市全体】激甚化・頻発化する自然災害に対応するため、建物の耐震化や老朽化した建物の建替え更新などを進め、災害に強く安全・安心な市街地を形成する など

オープンハウスの結果概要

Q これからの都市づくりにおいて重要だと思う要素(複数回答可)

※令和7年1月現在

生活と暮らし(約820件)

●生活利便性の確保に関する意見

- ・地下鉄やバスなどの交通利便性を確保してほしい。
- ・歩いて暮らせる範囲での生活利便性を確保してほしい。

●乗継環境の向上、バリアフリー化に関する意見

- ・駅のエレベーターやエスカレーターを増やしたり、改札から近い位置に設置したりすることでバリアフリー化をさらに進めてほしい。
- ・わかりやすい案内掲示をしてほしい。

●地域交流拠点への多様な機能の集積に関する意見

- ・駅の周辺が便利で暮らしやすい。
- ・地域交流拠点へさらに都市機能(商業施設、遊び場など)を集めてほしい。

➤ 交通利便性の確保、生活利便性の確保、バリアフリー化の推進に対する意見が多くみられる。

都市の成長(約350件)

●都市の交通機能の維持・向上に関する意見

- ・新幹線の延伸に期待している。/延伸の効果があるのか疑問。
- ・水素を使った公共交通システムの整備を進めてほしい。

●歩きたくなる空間の形成に関する意見

- ・緑化、歩行環境の整備などにより歩きたくなる空間をつくってほしい。
- ・オープンスペースやベンチ等があると良い。

●都心の再開発による交流の促進やイノベーションの形成に関する意見

- ・都心の再開発に期待している。
- ・観光客や富裕層だけではなく、市民向けの施設をつくってほしい。

➤ 都心の交通機能の向上、市民も観光客も行きたくなるようなにぎわいや機能の形成に対する意見が多くみられる。

札幌ならではの魅力(約330件)

●高次機能交流拠点への札幌の魅力と活力を高める機能の集積に関する意見

- ・丘珠空港の利便性(発着便数、アクセス性)を向上させてほしい。
- ・大和ハウスプレミストドームをもっと活用するべき。

●自然環境や農地の保全に関する意見

- ・自然環境を保全していくことが大切。
- ・野生動物が市街地に侵入しないよう適切な管理が必要。

➤ 高次機能交流拠点の更なる魅力向上、自然環境の保全に対する意見が多くみられる。

環境、安全・安心(約340件)

●災害に対応するための社会基盤の強靱化に関する意見

- ・災害に強いまちづくりが重要。
- ・大雨や地震対策に関心がある。

●地球温暖化防止、脱炭素化に資する取組の推進に関する意見

- ・地球温暖化対策を進めていくことが必要。
- ・太陽光発電について、景観や費用などの面で課題があると感じる。

➤ 災害に強い都市の形成や脱炭素社会の実現に対する意見が多くみられる。

子どもアンケートの概要

子どもアンケート

●実施目的

- ・次代を担う子ども達を対象に、「現在住んでいる地域の印象」、「未来の札幌のまちのイメージ」等をアンケートで把握し、計画見直しの参考とする

●実施期間

- ・令和6年8月29日～10月3日

●実施方法

- ・令和6年度、都市計画制度普及事業(ミニまち講座・まちなみ案内)に参加した小学校を中心に、21校を選出し、3～6年の児童を対象にアンケート調査を実施

◆質問内容

- ・現在住んでいる地域はにぎわっているか、買い物しやすいか
- ・普段、どこで遊んだり過ごしているか
- ・どのような遊び場がほしいか
- ・大人になった時、どんな地域に住みたいか
- ・大人になった時に、札幌市がどんなまちになってほしいか

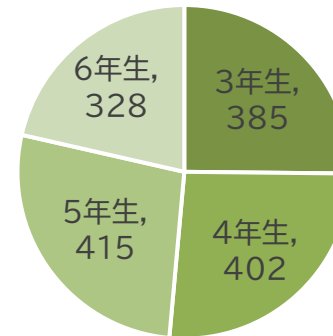
子ども達からの意見

3つの計画の検討

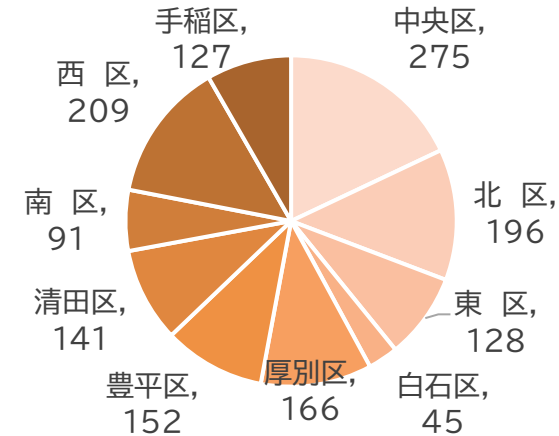
●回収結果

・1,530名(回収率:93.2%)

【学年別 単位:名】

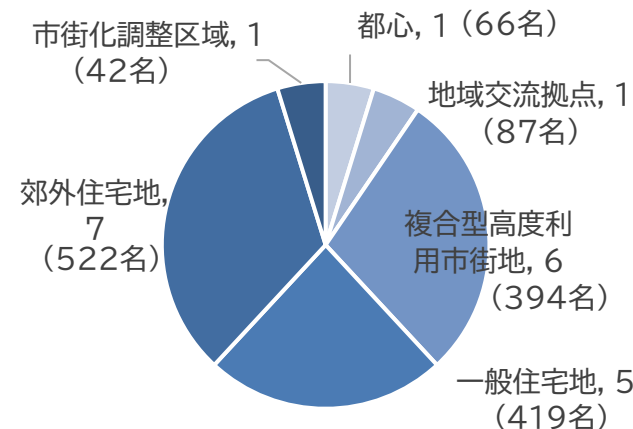


【居住している行政区別 単位:名】



【対象校の市街地区分 単位:校】

()内は通学している児童数

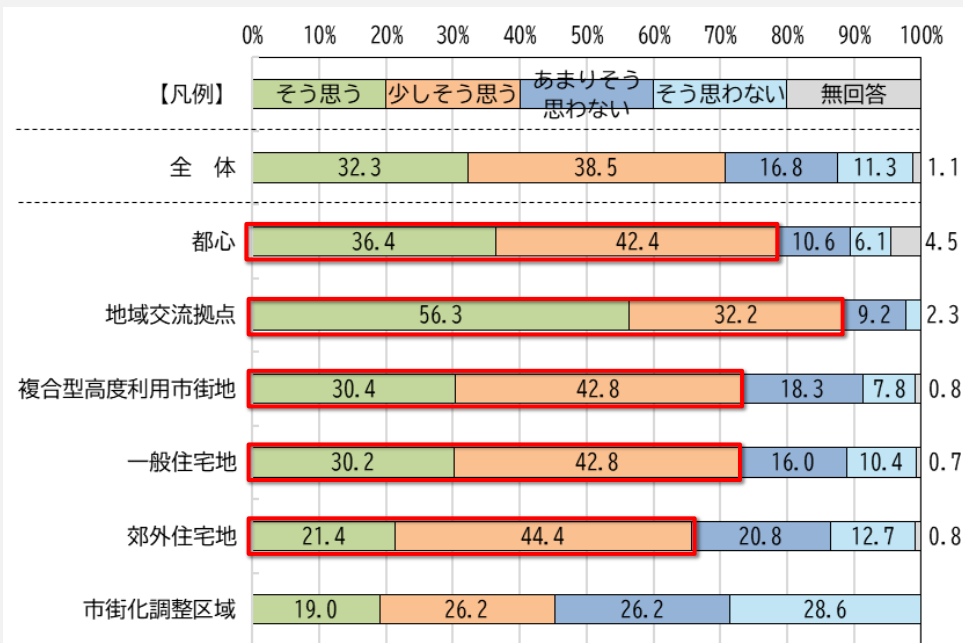


子どもアンケートの結果概要①

現在住んでいるところの利便性について

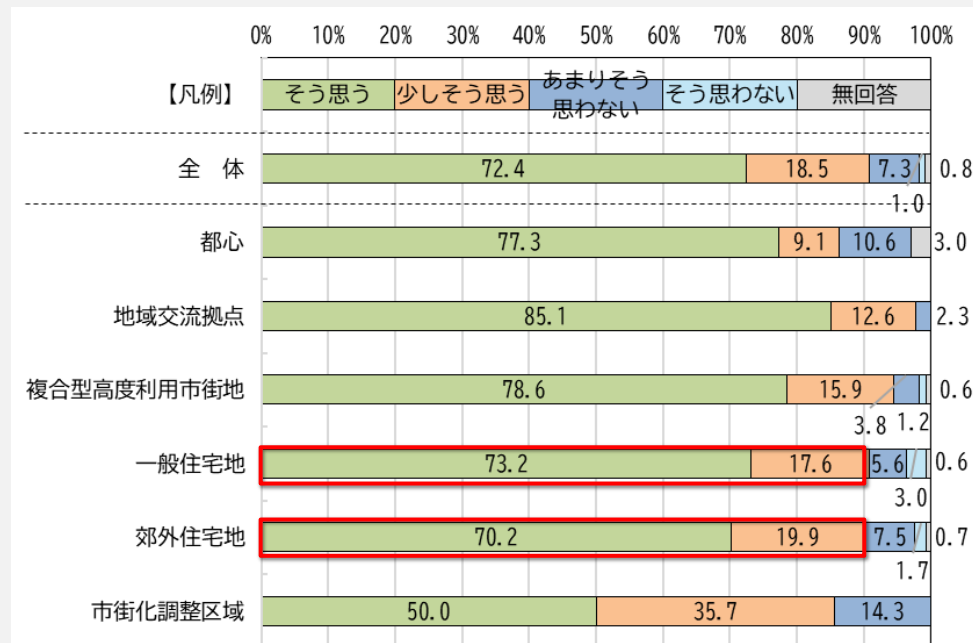
※令和7年1月現在

Q 地下鉄やJRの駅が近く、楽しく買い物することができて、まちがにぎわっていると思うか



➤都心や地域交流拠点において、まちがにぎわっていると思う割合が高く、複合型高度利用市街地、一般住宅地、郊外住宅地においても、にぎわっていると思う傾向は高くみられる。

Q 近くにスーパーやコンビニなどがあって、買い物がしやすいか

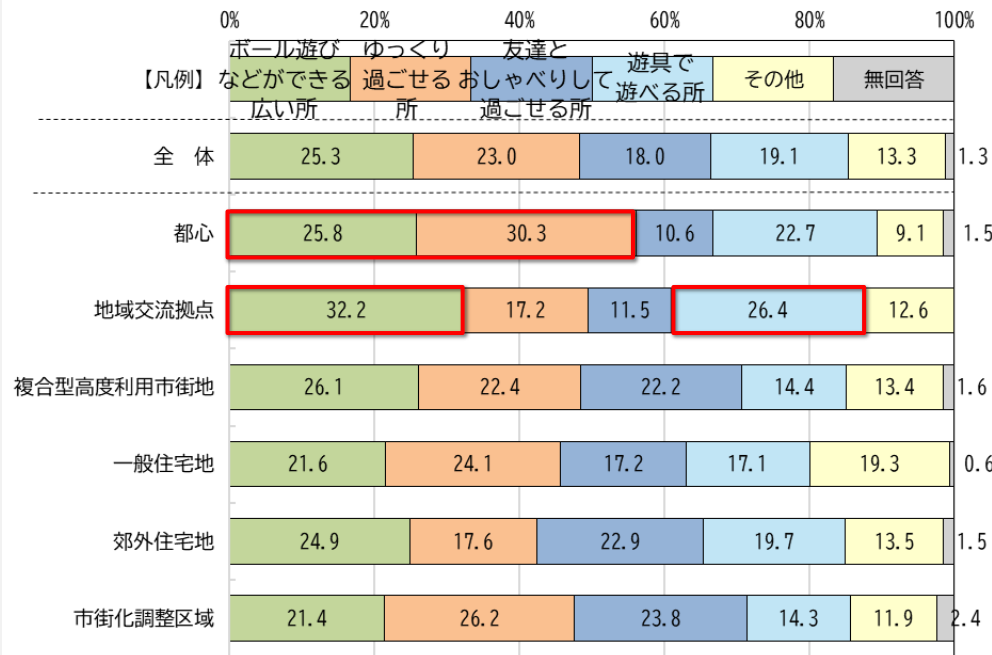


➤一般住宅地、郊外住宅地においても、約9割が買い物をしやすいと感じており、一定程度、生活利便性が確保されているとみられる。

子どもアンケートの結果概要②

遊び場のニーズ

Q 家から歩いて行ける範囲で、どんな場所が欲しいか



その他の回答:ショッピングセンター、ゲームセンター など

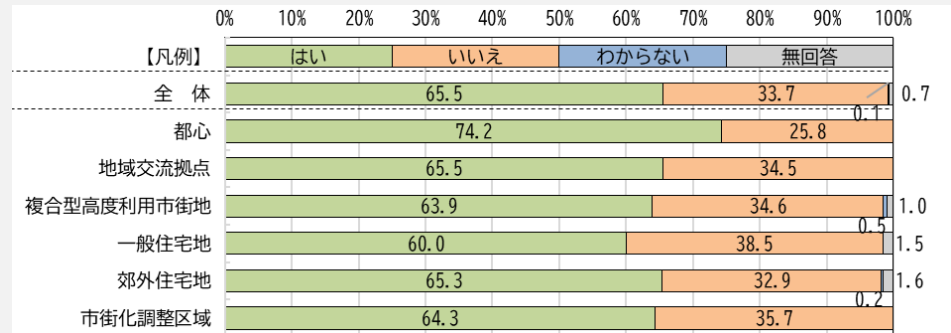
▶都心では「ボール遊びなどができる広い所」「ゆっくり過ごせる所」、地域交流拠点では「ボール遊びなどができる広い所」「遊具で遊べる所」が欲しいと感じている傾向が高くみられ、比較的広いスペースの遊び場を欲しいと感じている傾向がある。

▶そのほかの地域では、都心や地域交流拠点に比べて回答の偏りが小さい傾向がある。

将来の居住意向

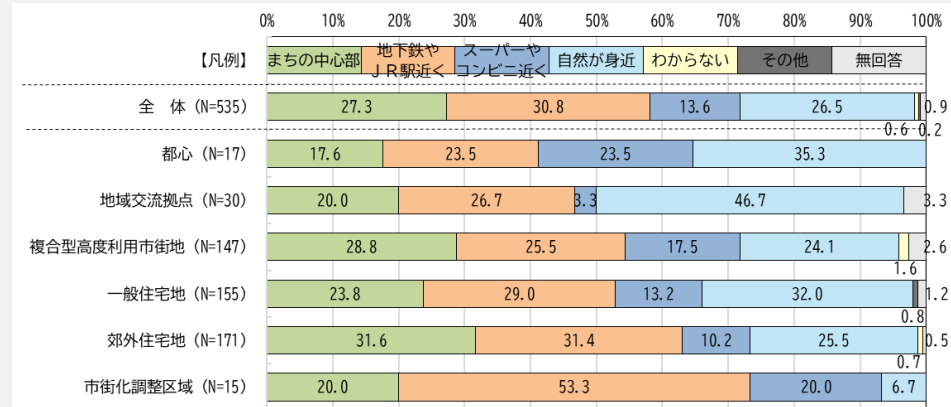
※令和7年1月現在

Q 大人になっても今住んでいる地域に住み続けたいか



▶いずれの市街地区分でも、6～7割程度の児童が今の地域に住み続けたいと考えている。

Q (「いいえ」と回答した児童対象)大人になったときに、札幌市内に住むとしたら、次のうちどこに住みたいか



▶居住したいところにはばらつきがみられる。

子どもアンケートの結果概要③

将来の札幌市のイメージ

※令和7年1月現在

Q これからの札幌市がどのようなまちになって欲しいか

- スーパーマーケットやコンビニなど便利なものが身近にたくさんあって住みやすいまち
- 緑豊かで、公園が色んな所にあるまち
- 小さい子や高齢者、外国人、障がいを持っている人などの色々な人が過ごしやすいまち
- バリアフリー化が進み、色んな人が安心して暮らせるまち
- 遊べる所が多いまち
- 地下鉄や電車の駅が色んな場所にあり、色んなところに行きやすいまち

生活と暮らしに関する回答

- 観光客が多く、外国との交流が盛んなまち
- 人が多く、色んな人と交流が出来るまち

都市の成長に関する回答

- 自然豊かなまち
- 札幌の魅力あふれるまち

札幌ならではの魅力に関する回答

- SDGsをすすめているまち、エコなまち
- 地震や大雨などの災害に強いまち

環境、安全・安心に関する回答

- みんなが優しいまち
- 事件や犯罪がないまち
- ポイ捨てがないまち
- ケンカをしないまち など

➤幅広い回答を得られたが、「災害に強いまち」、「自然豊かなまち」、「環境に優しいまち」といった回答が比較的多くみられた。